

インドタミルナドゥ州の最脆弱農業気候ゾーンにおける降雨量不足保険支払い

S.Senthilnathan¹, K.Palanisami¹, C.R.Ranganathan¹, P.K.Aggarwal², 梅津千恵子³

¹Tamil Nadu Agricultural University, Coimbatore, Tamil Nadu, India

²Indian Agricultural Research Institute, New Delhi, India

³総合地球環境学研究所

天候保険は農民によって採択されるレジリアンス戦略である。天候保険は農民を農作期の悪天候による収量の減少から保護するメカニズムである。インドでは、降水量やその他の気候要因の変動によって最近一般的になってきた。本稿では、ニューデリーに拠点を持つインド農業保険会社の保険料制度を基本として、各作物に対する初期保険料を計算する方法を提示する。タミルナドゥ農業大学とタミルナドゥ農業省が共同で出版した作物生産ガイド(2005) に提示される選択された作物の生育ステージと、インド気象局(IMD)30年間の降水量データを用いて分析された。選択された作物のそれぞれの生育ステージへの支払いシステムを提示した。降水量の上限は、郡の参照気象ステーションの30年間の年平均積算降水量に対応し、一方降水量の下限は作物の不作を回避するために必要とされる各作物の水需要量と同じとした。この方法により、天候に基づく作物保険は、降水量の不確実性に対するレジリアンス・メカニズムとして機能する。